

国語，数学，理科(化学，生物)問題

はじめに，これを読みなさい。

1. これは，国語，数学，化学，生物の4科目の問題を綴じた冊子である。必要な科目を選択して解答しなさい。食料環境政策学科受験者は「国語」が必須である。
2. 問題は，数学，化学，生物については表面から71ページ，国語については裏面から15ページある。ただし，ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
3. 解答用紙に印刷されている受験番号が正しいかどうか，受験票と照合して確認すること。
4. 監督者の指示にしたがい，解答用紙の氏名欄に氏名を記入すること。
5. 監督者の指示にしたがい，解答用紙にある「解答科目マーク欄」に1つマークし，「解答科目名」記入欄に解答する科目名を記入しなさい。なお，マークしていない場合，または複数の科目にマークした場合は0点となる。
6. 解答は，すべて解答用紙の所定欄にマークするか，または記入すること。所定欄以外のところには何も記入しないこと。解答番号は各科目の最初に示してある。
7. 問題に指定された数より多くマークしないこと。
8. 解答は，必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれもHB・黒)で記入のこと。
9. 訂正する場合は，消しゴムできれいに消し，消しくずを残さないこと。
10. 解答用紙は，絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
11. 解答用紙はすべて回収する。持ち帰らず，必ず提出すること。
12. この問題冊子は必ず持ち帰ること。
13. マーク記入例

良い例	悪い例
●	○ ⊗ ○

国 語 問 題

はじめに裏返して表紙の注意事項を必ず読みなさい。

1. この問題は 15 ページあります。
2. 解答番号は 1 ～17, 101～104, 201～202 です。
3. 数学・化学・生物は裏面から順にあります。

国語

(解答は解答用紙に横書きで記入すること。解答番号は1～17、101～104、201～202)

(一) 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

人類がまだ埋葬していないものの代表は戦争である。その亡霊は白昼横行しているように見える。人類はなぜ戦争するのか、なぜ平和は永続しないのか。

戦争と平和というが、両者は決して(1)的概念ではない。前者は進行してゆく「過程」であり、平和はゆらぎを持つが「状態」である。一般に「過程」は理解しやすく、ヴィヴィッドな、あるいは論理的な語りになる。これに対して「状態」は多面的で、名づけがたく、語りにくく、つかみどころがない。この非(2)性を具体的に述べてみよう。

まず、戦争である。

戦争は有限期間の「過程」である。始まりがあり終わりがある。多くの問題は単純化して勝敗にいかにか寄与するかという一点に収斂してゆく。戦争は語りやすく、新聞の紙面一つでも作りやすい。戦争の語りは叙事詩的になりうる。

指導者の名が頻繁に登場し、一般にその発言が強調され、性格と力量が美化される。それは宣伝だけではなく、戦争が始まってしまったからには指導者が優秀であつてもらわねば民衆はたまらない。民衆の指導者美化を求める眼差しを指導者は浴びてカリスマ性を帯びる。軍服などの制服は、場の雰囲気と相まって平凡な老人にも一見のスウコウさを与える。

一方、戦争における指導層の責任は単純化される。失敗が目に見えるものであつても、思いのほか責任を問われず、むしろ合理化される。その一方で、指導層が要求する苦痛、欠乏、不平等その他は戦時下の民衆が受容し忍耐するべきものとしての倫理

性を帯びてくる。それは災害時の行動倫理に似ていて、たしかに心に訴えるものがある。前線の兵士はもちろん、極端には戦死者を引き合いに出して、震災の時にも見られた「生存者罪悪感」という正常心理に訴え、戦争遂行の首尾はみずからの努力が足りないゆえだと各人に責任を感じるようにさせる。

民衆だけではない。兵士が戦列から離れることに非常な罪悪感を覚えさせるのには「生存者罪悪感」に訴えるところが実に大きい。親友が、あるいは信頼していた上官が先に逝ったという思いである。²「特別攻撃隊員は一步前へ」の号令が背中を押す一因子には、この罪悪感がある。

人々は、したがって、表面的には道德的となり、社会は平和時に比べて改善されたかにみえることすらある。かつての平和時の生活が、自己中心、弛緩、空虚、目的喪失、私利私欲むきだし、犯罪と不道德の横行する時代として低くみられるようにさえなる。

実際には、多くの問題は都合よく棚上げされ、戦後に先送りされるか隠蔽されて、未来は明るい幻想の色を帯びる。兵士という膨大な雇用が生まれて失業問題が解消し、兵器という高価な大量消費物資のために無制限の需要が生まれて経済界が活性化する。

もちろん、雇用と好況は問題先送りの結果である。

どうも、戦争の美徳は平和時の諸権利が制限される結果であって、実際にはその陰に非常な不公平を生むらしい。戦時中の社会は、軍官民を問わず、ずいぶん格差が大きい社会であった。裏面では、徴兵回避の術策がうごめき、暴力が公認され、暴利が横行し、放埒な不道德が黙認され、黒社会も公的な任務を帯び、大小の被害は黙殺される。

おそらく、戦争とはエントロピーの大きい(無秩序性の高い)状態であって、これがもつとも一般論的な戦争と平和の非(3) 性なのであろう。その証拠に、一般に戦争には自己収束性がない。戦争は自分の後始末ができないのである。

戦争が「過程」であるのに対して平和は無制限に続く有為転変の「状態」である。だから、非常にわかりにくく、目に見えにくく、心に訴える力が弱い。

戦争が大幅にエントロピーの増大を許すのに対して、³ 平和は絶えずエネルギーを費やして負のエントロピー(ネゲントロピー)を注入して秩序を立て直しつづけなければならない。一般にエントロピーの低い状態、たとえば生体の秩序性はそのようにして維持されるのである。エントロピーの増大は死に至る過程である。秩序を維持するほうが格段に難しいのは、部屋を散らかすと片づけるのとの違いである。戦争では散らかす「過程」が優勢である。戦争は男性の中の散らかす「子ども性」⁴が水を得た魚のようになる。

ここで、エントロピーの低い状態を「秩序」と言ったが、硬直的な格子のような秩序ではない。それなら全体主義国家で、これはしなやかでゆらぎのある秩序よりも実はエントロピーが高いはずである。快適さをめざして整えられた部屋と強迫的に整理された部屋の違いというか。全体主義的な秩序は、硬直的であつて、自己維持性が弱く、しばしばそれ自身が戦争準備状態である。さもなくば裏にほしいままの腐敗が生まれている。

負のエントロピーを生み出すためには⁵高いエントロピーをどこかに排出しなければならない。部屋の整理でいえば、片づけられたものの始末であり、現在の問題でいえば整然とした都市とその大量の廃棄物との関係である。かつての帝国主義の植民地、社会主義国の収容所列島、スラム、多くの差別などが、そのしわよせの場だったかもしれない。それでも足りなければ、戦争がかつこうの排泄場となる。マキャベリは「国家には時々排泄しなければならないものが溜まる」といった。しばしば国家は内部の葛藤や矛盾や対立の排泄のために戦争を行なってきた。

これに対して平和維持の努力は何よりもまず、しなやかでゆらぎのある秩序を維持しつづける努力である。しかし、この「免震構造」の構築と維持のために刻々要する膨大なエネルギーは一般の目に映らない。平和が珠玉のごとくみえるのは戦時中および終戦後しばらくであり、平和が続くにつれて「すべて世はこどもなし」「面白いことないなあ」と当然視され「平和ボケ」と蔑視される。

すなわち、平和が続くにつれて家庭も社会も世間も国家も、全体の様相は複雑化、不明瞭化し、見渡しが利かなくなる。平和の時代は戦争に比べて大事件に乏しい。人生に個人の生命を越えた(みせかけの)意義づけをせず、「生き甲斐」⁶を与えない。これ

らが「退屈」感を生む。

さらに、平和においては、戦争とは逆に、多くの問題が棚卸しされ、あげつらわれる。戦争においては隠蔽されるか大目に見られる多くの不正が明るみになる。実情に反して、社会のダラクは戦時ではなく平和時のほうが意識される。社会の要求水準が高くなる。そこに人性としての疑いとやっかみが交じる。

人間は現在の傾向がいつまでも続くような思考に慣れているので、未来は今よりも冴えないものにみえ、暗くさえ感じられ、社会全体が慢性の欲求不満状態に陥りやすい。社会の統一性は、平和な時代には見失われがちであり、空疎な言説のうちに消えがちである。経済循環の結果として、周期的に失業と不況とにおびえるようになる。被害感は強くなり、自分だけが疎外されているような感覚が生まれ、責任者を見つけようとする動きが煽られる。

平和時の指導層は責任のみ重く、疎外され、戦時の隠れた不正に比べれば些細な非をあげつらわれる。指導者と民衆との同一視は普通行なわれず、指導者は嘲笑的にされがちで、社会の集団的結合力が乏しくなる。指導者の平和維持の努力が評価されるのは半世紀から一世紀後である。すなわち、棺を覆うてなお定まらない。浅薄な眼には若者に限らず戦争はカッコよく平和はダサイと見えるようになる。

時とともに若い時にも戦争の過酷さを経験していない人が指導層を占めるようになる。長期的には指導層の戦争への心理的抵抗が低下する。その彼らは戦争を発動する権限だけは手にしているが、戦争とはどういうものか、そうして、どのようにして終結させるか、その得失は何であるかは考える能力も経験もなく、この欠落を自覚さえしなくなる。

戦争に対する民衆の心理的バリアーもまた低下する。国家社会の永続と安全に関係しない末梢的な摩擦に際しても容易に煽動されるようになる。たとえば国境線についての些細な対立がいかに重大な不正、侮辱、軽視とされ「ばかにするな」「なめるな」の大合唱となってきたことか。歴史上その例に事欠かない。

そして、ある日、人は戦争に直面する。

第一次大戦開始の際のドイツ宰相ベートマン・ホルヴェークは前任者に「どうしてこういうことになったんだ」と問われて「そ

れがわかつたらねえ」と嘆息したという。

まだ、戦争が始まっていないという意味での平和な時期の平和希求は、やれないわけではない。しかし、戦争反対の言論は、達成感に乏しく次第にアピール力を失いがちである。平和は維持であるから、唱えつづけなければならない。すなわち持続的にエネルギーを注ぎつづけなければならない。しかも効果は目にも見えないから、結果によって勇気づけられることはめつたになく、あつても弱い。したがつて徒労感、敗北感が優位を占めてくる。そして、戦争の記憶が遠のくにつれて、「今はいちおう平和じゃないか」「戦争が起こりそうになったら反対するぞ」という考えが多くの者に起こりがちとなる。

しかし、これは力不足なのではない。平和を維持するとはそういうものである。その困難性は究極は負のエントロピーを注ぎつづけるところにある。実は平和は積極的に構築するものである。

(中井久夫「戦争と平和についての観察」より)

〔註〕

○マキャベリ——イタリアの政治思想家。一四六九—一五二七。

問一 二重傍線部 a・d のカタカナを漢字に直して書きなさい。解答番号は a が

101

、d が

102

問二 二重傍線部 b・c の漢字部分の読み方を平仮名で書きなさい。解答番号は b が

103

、c が

104

問三 空欄

(1)

(2)

(3)

に当てはまる、共通の言葉を次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

い。解答番号は

1

A 抽象

B 具象

C 対称

D 対照

E 相對

F 絶對

問四

傍線部1「それは災害時の行動倫理に似ていて、たしかに心に訴えるものがある。」とあるが、それはどういうことか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 2

A 不都合なことが起こっても、政府や自治体も懸命に努力をしているので、決して最悪の事態にはならないであろうと思えること。

B 不都合なことが起こっても、それは誰もが苦しんでいるという状況下でのことなので、耐えねばならないと思えること。

C 不都合なことが起こっても、それは一時のことであり、時間がたてば自然に解決されるものなので、苦しい状況にも耐えようと思えること。

D 不都合なことが起こっても、指導者が根本的な解決策を示すことはまれなことであるため、決して安易な期待など持たないことが大切であると思えること。

E 不都合なことが起こっても、亡くなった者たちのことを考えれば、生きていられるだけでもありがたいと思えること。

問五 傍線部2「特別攻撃隊員は一步前へ」の号令が背中を押す一因子には、この罪悪感がある。」とはどういうことか。その説

明として最も適切なものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は

3

A 生きて戻ることのない作戦に、出陣することを決断させる理由の一つには、先に亡くなった者たちが、あの世で待っていてくれるという慰めの気持ちがあるということ。

B 戸惑いながらも、死を覚悟して特攻隊に参加することで、先に亡くなった者たちに対する供養の気持ちを表すことができるということ。

C たとえ指導者の判断がまちがっていたとしても、命令である以上、従うのが軍人の務めであり、そのことが同時に亡くなった者たちへのお詫びにもなるということ。

D 死を意味する出陣を覚悟させる理由の一つに、自分だけが戦争で生き残ってしまうことに対して、後ろめたいという気持ちがあるということ。

E 特攻隊という過酷な任務を果そうとするのは、命を落としてしまった仲間や上司たちへの償いの気持ちがあるからだということ。

問六

傍線部3「平和は絶えずエネルギーを費やして負のエントロピー(ネグエントロピー)を注入して秩序を立て直しつつづければならない。」とあるが、それはどうしてか。その理由として最も適切なものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は

4

A 戦争は美化され、単純化されるので、平和時の複雑な様相を維持するために、強く明確なアピールを続けなければならないから。

B 人々は容易に戦争へと導かれてしまうので、平和な状態を維持するためには、希望のある未来を描き続けなければならないから。

C 平和な状態のときは、人々の価値観が固定化してしまうので、あえて負のエネルギーを用いて、社会を活性化させる必要があるから。

D 平和な状態が続くと、社会の様相は多様化し、複雑化するので、そのようなマイナスの側面をぬぐいさるために、常に正しい秩序を構築する必要があるから。

E 戦争に比して、平和は実感することが難しく、また見えにくいので、しなやかな秩序を維持する努力がなければ、簡単に失われてしまうものだから。

問七 傍線部4「水を得た魚」と対義的な意味になる慣用表現はどれか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 5

- A 魚心あれば水心
- B 鳥雲に入る
- C 木に寄りて魚を求む
- D 河童の川流れ
- E 木から落ちた猿

問八 傍線部5「高いエントロピー」とあるが、ここでいう「エントロピー」とは何を指しているか。本文中の言葉を用いて三〇字以内で説明しなさい(なお、句読点や記号等がある場合は、それも一字とする)。解答番号は 201

問九 傍線部イ「平和ボケ」と蔑視される」、ロ「生き甲斐を与えない」、ハ「退屈」感を生む」という言葉に、それぞれかぎカッコがついているのはどうしてか。その理由として最も適切なものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 6

- A これらの言葉づかいが示すような平和の理解の仕方に、筆者が同意していないことを示すため。
- B 平和な状況という中では、本来の意味とは異なり、ネガティブな意味になってしまふことを示すため。
- C 平和が良いものであるように思われるのは、戦時中および終戦後しばらくの間だけだということを示すため。
- D 平和がどのような状態を人々に与えるかということを、象徴的な言葉を用いて、暗に読者に示すため。
- E いずれも平和を考えるうえで、重要な意味を持つ言葉だが、本来の意味が風化してしまっていることを示すため。

問十

次のA～Eのうち、本文の内容と合致するものを一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は

7

A 平和は犯罪をなくし、経済もまた活性化させる。しかし、それは見かけだけのものであり、実際には戦争時と変わらぬ不況や犯罪が起こっている。したがって、平和時には決して良いことばかりが起こっているわけではない。

B 戦争はエントロピーの大きい時期であり、そのため下手をすると戦争そのものがコントロールできなくなり、その国自体が自滅する恐れがある。したがって、適度に負のエントロピーを注入し、バランスを取ることが必要である。

C 平和な状態では、毎日の生活や社会の中に活気や緊張がないように感じられる。しかし、刺激がないような時代になると、平和な状態を保つための努力が必要なのである。

D 平和は犯罪や不安を助長し、人々に空虚感をもたらすので、国民はいつしか強いリーダーと強い国家を求めるようになる。その意味で戦争は、国民自らが求めた結果に他ならないと言える。

E 平和な時代が続くことで、戦争を経験し、その悲惨さを語り継ぐ人々がいなくなると、逆に平和の価値に気付かずに、平和であることに退屈を感じる若者が増える。その結果、負のエントロピーが増えることで、いつしか社会のバランスが崩れ出す。

(二) 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

園の別当入道は、さうなき包丁者なり。ある人のもとにて、いみじき鯉を出だしたりければ、皆人、別当入道の包丁を見ればやと思へども、たやすくうち出でんもいかがとためらひけるを、別当入道さる人にて、「この程百日の鯉を切り侍るを、今日欠き侍るべきにあらず。まげて申し請けん」とて切られける、いみじく 、興ありて人ども思へりけると、ある人、北山太政入道殿に語り申されたりければ、「かやうの事、おのれはよにうるさく覚ゆるなり。『切りぬべき人なくば、たべ。切らん』と言ひたらんは、なほよかりなん。何条、百日の鯉を切らんぞ」とのたまひたりし、をかしく覚えしと人の語り給ひける、いとをかし。

大方、ふるまひて興あるよりも、興なくてやすらかなるが、まさりたる事なり。客人の饗応なども、ついでをかしきやうにとりなしたるも、まことによけれども、ただその事となくてとり出でたる、いとよし。人に物を取らせたるも、ついでなくて、「これを奉らん」と云ひたる、まことの志なり。惜しむよしして乞はれんと思ひ、勝負の負けわざにことづけなどしたる、むつかし。

〔註〕

○園の別当入道——藤原基氏もとむらじ

○百日の鯉——百日間、修行のために毎日、鯉を切ること。

○北山太政入道殿——西園寺実兼さねかね

〔徒然草〕第三一段より

問一 傍線部1「さうなき」の「さう」の部分に当てはまる適切な漢字を、次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答

番号は

- A 左右 B 双 C 相 D 僧 E 争

問二 傍線部2「たやすくうち出でんもいかが」の意味として、最も適切なものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は

- A 気軽にお願いするのもどうか
B 簡単にお願ひできるかどうか
C 気軽に包丁を取り出してもらえるかどうか
D 軽率に包丁を取り出すのもどうか

問三 傍線部3「さる人」とはどのような人のことか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答

番号は

- A 恥じらいのある人
B 思いやりのある人
C 機転の利く人
D 奥ゆかしい人

問四 空欄に入る最も適切な言葉を次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 11

- A あたらしく
- B あやしく
- C あさましく
- D つきづきしく
- E ゆかしく
- F わびしく

問五 波線部 a「をかしく」、波線部 b「いとをかし」とあるが、「をかし」と思っているのはそれぞれ誰か。最も適切なものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は a が 12、b が 13

- A 別当入道
- B 北山太政入道
- C 別当入道が鯉を料理したのを見た人
- D この随筆の作者
- E その他の人

問六 傍線部 4「まことの志」とはどのようなものか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答

番号は 14

- A 厚意
- B 恩義
- C 真意
- D 信念
- E 配慮

問七 傍線部5「惜しむよしして」とはどういう意味か。最も適切なものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解

答番号は

15

A やるのほ惜しくないという理由で

B やるのほ惜しくないようなふりをして

C やるのほ惜しいという理由で

D やるのほ惜しいというふりをして

問八 傍線部6「むつかし」の意味として、最も適切なものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は

16

A たやすくできるものではない

B とうてい見込みがない

C わずらわしくていやである

D なかなか気がゆるせない

問九 この随筆の趣旨にあたる一文の始めと終わりをそれぞれ五文字ずつ抜き出しなさい(句読点も一字とする)。解答番号は

202

問十 この随筆の作者は、作中の誰に共感しているのか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。

解答番号は

17

- A 別当入道
- B 別当入道を招待した人
- C 別当入道が鯉を料理したのを見た人
- D 北山太政入道





